

Docket No. 209819US6

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

IN RE APPLICATION OF: Takashi SASAKI, et al.

GAU:

SERIAL NO: NEW APPLICATION

EXAMINER:

FILED: HEREWITH

FOR: OPTICAL DISC RECORDING METHOD AND APPARATUS

REQUEST FOR PRIORITY

ASSISTANT COMMISSIONER FOR PATENTS  
WASHINGTON, D.C. 20231

SIR:

- ☐ Full benefit of the filing date of U.S. Application Serial Number, filed, is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §120.
- ☐ Full benefit of the filing date of U.S. Provisional Application Serial Number, filed, is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119(e).
- ☒ Applicants claim any right to priority from any earlier filed applications to which they may be entitled pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119, as noted below.

In the matter of the above-identified application for patent, notice is hereby given that the applicants claim as priority:


<u>COUNTRY</u>	<u>APPLICATION NUMBER</u>	<u>MONTH/DAY/YEAR</u>
JAPAN	2000-183780	June 19, 2000

Certified copies of the corresponding Convention Application(s)

- ☒ are submitted herewith
- ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee
- ☐ were filed in prior application Serial No. filed
- ☐ were submitted to the International Bureau in PCT Application Number .  
Receipt of the certified copies by the International Bureau in a timely manner under PCT Rule 17.1(a) has been acknowledged as evidenced by the attached PCT/IB/304.
- ☐ (A) Application Serial No.(s) were filed in prior application Serial No. filed ; and  
(B) Application Serial No.(s)
- ☐ are submitted herewith
- ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee

Respectfully Submitted,

OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,  
MAIER & NEUSTADT, P.C.

  
Gregory J. Maier

Registration No. 25,599

C. Irvin McClelland  
Registration Number 21,124



22850

Tel. (703) 413-3000  
Fax. (703) 413-2220  
(OSMMN 10/98)

#4  
a07  
11/17/01



日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 6月19日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-183780

出 願 人

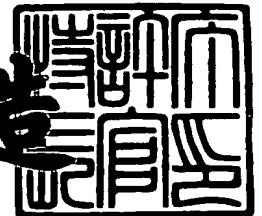
Applicant(s):

ソニー株式会社

2001年 5月11日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3040050

【書類名】 特許願

【整理番号】 0000527302

【提出日】 平成12年 6月19日

【あて先】 特許庁長官 近藤 隆彦 殿

【国際特許分類】 G11B 7/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 佐々木 敬

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 森 敦司

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 盛一 宗利

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 番場 光幸

【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代表者】 出井 伸之

【代理人】

【識別番号】 100067736

【弁理士】

【氏名又は名称】 小池 晃

【選任した代理人】

【識別番号】 100086335

【弁理士】

【氏名又は名称】 田村 榮一

【選任した代理人】

【識別番号】 100096677

【弁理士】

【氏名又は名称】 伊賀 誠司

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 019530

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9707387

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 光ディスク記録装置及び光ディスク記録方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 略前端部分の記録パワーを複数段に亘る階段状に設定するとともに、形成するピット長に応じたパルス幅の記録パルスを生成する記録パルス生成手段を備え、

上記記録パルス生成手段により生成された記録パルスによりパルス発光されるレーザ光を追記型光ディスクに照射して 4 倍速よりも速度で記録を行うことを特徴とする光ディスク記録装置。

【請求項 2】 上記記録パルス生成手段は、記録条件に応じて可変されたパルス幅の記録パルスを生成することを特徴とする請求項 1 記載の光ディスク記録装置。

【請求項 3】 上記記録パルス生成手段は、形成するピット／ランドの長さを検出するピット／ランド長検出手段を備え、このピット／ランド長検出手段による検出出力に基づいて、形成するピット／ランドの長さの組み合わせに応じて可変されたパルス幅の記録パルスを生成することを特徴とする請求項 1 記載の光ディスク記録装置。

【請求項 4】 形成するピット長に応じたパルス幅を有し、略前端部分の記録パワーを複数段に亘る階段状に設定した記録パルスを生成し、

上記記録パルスによりパルス発光されるレーザ光を追記型光ディスクに照射して 4 倍速よりも速度で記録を行うことを特徴とする光ディスク記録方法。

【請求項 5】 記録条件に応じて上記記録パルスのパルス幅を制御して、記録を行うことを特徴とする請求項 3 記載の光ディスク記録方法。

【請求項 6】 形成するピット／ランドの長さの組み合わせに応じて上記記録パルスのパルス幅を制御して、記録を行うことを特徴とする請求項 3 記載の光ディスク記録方法。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、レーザ光を光ディスクの記録面に照射してピットを形成して情報の記録を行うマーク長記録方式の光ディスク記録装置に関し、特に 8 倍速記録や 12 倍速記録など 4 倍速よりも速い速度で記録を行う光ディスク記録装置及び光ディスク記録方法に関する。

## 【 0 0 0 2 】

## 【従来の技術】

従来より、光ディスクなどの記録媒体に対して光変調方式記録を行う場合、ディスク上に形成されるピット（マーク）の良好な形成のために、レーザをパルス発光させることにより熱的な制御を行うようにしている。具体的には、レーザを駆動するドライブパルスとしてパルス波形を設定するとともに、各パルス期間のレベル（波高値）も制御して、レーザパワーやレーザ照射期間をコントロールしている。

## 【 0 0 0 3 】

例えば、CD-R (CD-Recordable) や CD-RW (CD-ReWritable) に代表される光記録再生装置では、記録しようとする記録マーク長（又はスペース長）に応じて、その照射するレーザのパルス長又はパルス数を可変することでレーザパワー出力区間を制御するようにしたパルス長記録方式又はパルストレイン記録方式が採用されている。

## 【 0 0 0 4 】

CD-R の最新規格であるオレンジブック規格 (Orange-Book Part2 (Version 3.1)) では、規格自体が 1 倍速記録、2 倍速記録及び 4 倍速記録を前提としており、その際の書き込み速度に応じたレーザ発光制御（記録ストラテジ（記録補償））は、図 10 及び図 11 のように規定されている。すなわち、CD-R 規格では、3 T ~ 11 T のピット（マーク）及びランド（スペース）の組み合わせで光ディスクに情報が記録され、1 倍速記録時及び 2 倍速記録時の記録ストラテジは、図 10 に示すように、 $n$  T のピット（マーク）を形成するレーザパワーを  $P_w$  として、 $(n - \theta)$  T +  $\alpha$  T のレーザパワー出力区間が定められている。ただし、 $\theta = 1$  T、 $\alpha = 0.13$  T である。また、4 倍速記録時の記録ストラテジは、図 11 に示すように、 $n$  T のピット（マーク）を形成するレーザパワーを  $P_w +$

$\Delta P$ とし、 $(n - \theta) T$ がレーザパワー ( $P_w$ ) の出力区間、さらに、ODTがレーザパワー ( $\Delta P$ ) の出力区間として定められている。ここで、 $\Delta P$ は $P_w$ の2.0%~30%とされ、また、ODTは $1.25T \sim 1.5T$ とされる。

## 【0005】

## 【発明が解決しようとする課題】

ところで、1倍速記録、2倍速記録及び4倍速記録を前提とした上記オレンジブック規格による記録ストラテジでは、8倍速記録や12倍速記録など4倍速よりも速度で記録を行う場合に適用すると、記録しようとするビット／ランド符号間で熱干渉が発生し、ピットの形状の変形やジッタの悪化等により記録信号の品位が劣化する。

## 【0006】

すなわち、図12に示すように、 $nT$ の記録データに対して $nT$ の長さのピットが長円形状に形成されるのが理想的な記録データとピットの関係であるのに対し、1倍速記録時及び2倍速記録時の記録ストラテジで例えば8倍速記録を行うと、図13に示すように、終端側がトラックセンターと直交する方向に広がった涙型形状のピットが形成されてしまい、また、4倍速記録時の記録ストラテジを採用すれば図14に示すように直交する方向への広がりは少し改善された涙型形状のピットが形成されてしまう。

## 【0007】

ここで、図13及び図14において、期間A及び期間Bは、レーザ発光がオンとなってからピットの形成が開始されるまでの時間遅れをそれぞれ示し、また、期間a及び期間b期間cはレーザ発光がオフとなってからピットの形成が終了されるまでの時間遅れをそれぞれ示す。

## 【0008】

このようにピットの形状の変形やジッタの悪化等により記録信号の品位が劣化すると、正常に再生ができなくなってしまう虞がある。

## 【0009】

そこで、本発明の目的は、上述の如き従来の問題点に鑑み、8倍速記録や12倍速記録など4倍速よりも速い速度で適正なピット形状の記録を行うことができ

るようにすることにある。

【 0 0 1 0 】

【発明が解決しようとする課題】

本発明に係る光ディスク記録装置は、略前端部分の記録パワーを複数段に亘る階段状に設定するとともに、形成するピット長に応じたパルス幅の記録パルス生成する記録パルス生成手段を備え、上記記録パルス生成手段により生成された記録パルスによりパルス発光されるレーザ光を追記型光ディスクに照射して4倍速よりも速度で記録を行うことを特徴とする。

【 0 0 1 1 】

また、本発明に係る光ディスク記録方法は、形成するピット長に応じたパルス幅を有し、略前端部分の記録パワーを複数段に亘る階段状に設定した記録パルス生成し、上記記録パルスによりパルス発光されるレーザ光を追記型光ディスクに照射して4倍速よりも速度で記録を行うことを特徴とする。

【 0 0 1 2 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について図面を参照しながら詳細に説明する。

【 0 0 1 3 】

本発明は、例えば図1に示すような構成の光ディスク記録再生装置100に適用される。

【 0 0 1 4 】

図1に示した光ディスク記録再生装置100は、CD-R (CD-Recordable) すなわち追記型光ディスク1をスピンドルモータ2により線速度一定で回転させ、光学ヘッド3によりレーザ光を光ディスク1の記録面に照射してピットを形成してデータの記録／再生を行うマーク長記録方式のディスクドライブであって、上記スピンドルモータ2及び光学ヘッド3に接続されたサーボ回路4、上記光学ヘッド3に接続された記録パルス生成回路5及び再生信号処理回路6、上記記録パルス生成回路5及び再生信号処理回路6に接続されたエンコーダ／デコーダ回路7、上記エンコーダ／デコーダ回路7に接続されたSCSIインターフェース回路8、上記サーボ回路4、エンコーダ／デコーダ回路7やSCSIインターフェ



ース回路 8 に接続されたシステムコントローラ 9 などを備え、上記 SCS I インターフェース回路 8 を介して外部のホストコンピュータ 10 に接続されるようになっている。

## 【0015】

上記サーボ回路 4 は、ホストコンピュータ 10 から SCS I インターフェース回路 8 を介して供給される制御命令に応じた制御動作をホストコンピュータ 10 により制御され、データの記録／再生時に、上記光学ヘッド 3 により光ディスク 1 の記録面上の目的の領域をアクセスするように、上記光ディスク 1 を線速度一定で回転させるようにスピンドルモータ 2 の駆動制御を行うとともに、上記光学ヘッド 3 の送り、フォーカス、トラッキング等の制御を行う。

## 【0016】

この光ディスク記録再生装置 100 において、書き込もうとするデータは、ホストコンピュータ 10 から SCS I インターフェース回路 8 を介してエンコーダ／デコーダ回路 7 に供給され、このエンコーダ／デコーダ回路 7 で書き込もうとするデータフォーマット例えば E M F 信号にエンコードされて記録パルス生成回路 5 に供給される。

## 【0017】

この光ディスク記録再生装置 100 における記録パルス生成回路 5 では、エンコーダ／デコーダ回路 7 から供給される E F M ( 8 - 1 5 変調 ) 信号に対して、記録しようとするメディアの色素材料、反射膜材料、線速度、記録速度、当該記録再生装置の持つ光学系の特性などに応じて、記録ストラテジ ( 記録補償 ) 処理を施して記録パルスを生成する。

## 【0018】

この記録パルス生成回路 5 で生成される記録パルスの例を図 2 に示す。

図 2 に示す記録パルスにおいて、O D T 1 と O D T 2 は、記録しようとする 3 T ~ 11 T の記録パルス出力期間において、

$$0 T \leq O T D 1 \leq 3 . 0 T, P w * 0 . 0 \leq \Delta P 1 \leq P w * 0 . 5$$

$$0 T \leq O T D 2 \leq 3 . 0 T, P w * 0 . 0 \leq \Delta P 2 \leq P w * 0 . 5$$

の範囲で可変設定される。ここで、O D T 1 と O D T 2、 $\Delta P 1$  と  $\Delta P 2$  は、

$$ODT1 \geq ODT2$$

$$\Delta P1 \geq \Delta P2$$

なる関係とする。

【0019】

また、記録パルスODT1、ODT2は、

$$ODT1_{(3T)} \geq ODT1_{(4T)} \geq \dots ODT1_{(11T)}$$

$$ODT2_{(3T)} \geq ODT2_{(4T)} \geq \dots ODT2_{(11T)}$$

なる関係を保持する状態でであれば3T～11Tの記録パルスにそれぞれに対して独立に出力期間を可変することも可能である。

【0020】

ここで、光ディスクなどの記録媒体に対して光変調記録方式で記録を行う場合には、記録しようとするピットの直前にくるランド（スペース）の長さが短いほど、その前のピット（マーク）を記録した際に蓄積された熱が十分に放熱されていないために熱干渉が発生し易い。そこで、この記録パルス生成回路5では、記録しようとするピット（マーク）、ランド（スペース）の組み合わせにより、それぞれのパルスについて独立かつ任意にパルス長を可変することで、記録後の再生信号が最良となるように記録パルス長を変化させることも可能である。

【0021】

上記記録パルス生成回路5で生成された各記録パルスは、光学ヘッド3に内蔵されたレーザ駆動用のレーザドライバ回路31に供給される。レーザドライバ回路31により記録パルスの論理に従いレーザダイオードを駆動して記録レーザを発光させることで、光ディスク1にデータの記録が行われる。

【0022】

ここで、記録ストラテジ処理を施してEQEFM記録パルスV1の略前端に2段階の積み重ね部分 $\Delta P1$ 、 $\Delta P2$ を重畳させた記録パルス生成回路5は、例えば図3に示すように、ピット／ランド長検出回路51、EQEFM生成回路52、ODP1生成回路53及びODP2生成回路54を備える。

【0023】

この記録パルス生成回路 5 において、ピット／ランド長検出回路 5 1 は、エンコーダ／デコーダ回路 7 から供給される E F M 信号のパルス幅や直前のピット長、ランド長を検出する。そして、E Q E F M 生成回路 5 2 では、E F M 信号に基づいた所定のレベル及びパルス幅の E Q E F M 記録パルス V 1 を生成し、O D P 1 生成回路 5 3 では、レーザ駆動パルスの略前端に付加されることになる O D P 1 記録パルス V 2 を生成し、O D P 2 生成回路 5 4 を備える。レーザ駆動パルスの略前端に付加されることになる O D P 2 記録パルス V 3 を生成する。上記 E Q E F M 生成回路 5 2、O D P 1 生成回路 5 3 及び O D P 2 生成回路 5 4 により生成される各記録パルス V 1、V 2、V 3 は、ピット／ランド長検出回路 5 1 によって検出された E F M 信号のパルス幅や直前のピット長、ランド長に応じてパルス幅やパルスレベル（電圧レベル）が可変制御される。

#### 【 0 0 2 4 】

上記記録パルス生成回路 5 で生成された各記録パルス V 1、V 2、V 3 は、光学ヘッド 3 に内蔵されたレーザ駆動用のレーザドライバ回路 3 0 に供給される。レーザドライバ回路 3 0 により各記録パルスの論理に従いレーザダイオード L D を駆動して記録レーザを発光させることで、光ディスク 1 にデータの記録が行われる。上記レーザドライバ回路 3 0 では、上記 E Q E F M 生成回路 5 2、O D P 1 生成回路 5 3 及び O D P 2 生成回路 5 4 により生成された各記録パルス V 1、V 2、V 3 が電圧／電流変換回路 3 1、3 2、3 3 によって記録電流信号 I 1、I 2、I 3 に変換されて、各記録電流信号 I 1、I 2、I 3 が加算回路 3 4 によって加算合成される。そして、この加算回路 3 4 により各記録電流信号 I 1、I 2、I 3 を加算合成して得られる駆動電流  $i$  ( $= I 1 + I 2 + I 3$ ) をレーザダイオード L D に流すことによって、上記レーザダイオード L D を駆動して記録レーザを発光させ、光ディスク 1 にデータを記録する。

#### 【 0 0 2 5 】

すなわち、この記録パルス生成回路 5 では、図 4 に示すように、上記記録パルス生成回路 5 で生成された各記録パルス V 1、V 2、V 3 を電流値として加算した駆動電流  $i$  をレーザダイオード L D に流し、E Q E F M 信号の略前端に 2 段階の積み重ね部分  $\Delta P 1$ 、 $\Delta P 2$  を有する発光波形の記録レーザを上記レーザダイ

オードLDから光ディスク1の記録面に照射することにより、上記記録面上にピットとランドからなるトラックを形成する。

【0026】

この図4において、期間Cは、レーザ発光がオンとなってからピットの形成が開始されるまでの時間遅れを示し、また、期間cはレーザ発光がオフとなってからピットの形成が終了されるまでの時間遅れを示す。上記期間C及び期間cは、

$$C < B < A$$

$$c < b < a$$

すなわち、従来の1倍速記録時及び2倍速記録時の記録ストラテジを採用して記録を行った場合の図13に示した期間A及び期間a、また、従来の4倍速記録時の記録ストラテジを採用して記録を行った場合の図14に示した期間B及び期間bよりも短い期間となる。

【0027】

このように本発明に係る光ディスク記録再生装置100では、高速記録時におけるEFM信号に精度良く対応したピット／ランドを形成することができる。

ここで、この光ディスク記録再生装置100では、EQEFM記録パルスV1にODP1記録パルスV2とODP2記録パルスV3を加算することにより駆動電流iが生成されるのであるが、各記録パルスV1、V2、V3は、記録条件や上記ピット／ランド長検出回路51により検出されるEFM信号のパルス幅や直前のピット長、ランド長に応じてレベルやパルス幅が可変され、また、3T～11Tのそれぞれに応じてパルス幅を任意にかつ独立して可変設定される。つまり、パルス幅の違い（レーザ照射期間の差によって生ずる記録トラック上の熱蓄積の違い）に応じてパルス幅を制御することになり、これによりEFM信号に精度良く対応したピット／ランドを形成することができる。

【0028】

実際には、ディスクの材質（色素膜の材質）、製造メーカ、記録線速度、記録速度、光学ヘッドの光学的特性などの諸条件によっても、パルス幅やパルスレベルを調整する。

【0029】

特に、色素膜の材質の違いなどによって熱反応の違いがあるため、記録動作の際に装填されているディスクの種別や製造メーカを判断して、パルス幅やパルスレベルを調整することは有効である。また、記録開始後にパルス幅やパルスレベルを調整することも記録動作に有効となる。

### 【 0 0 3 0 】

ここで、シアニン系ディスク及びフタロシアニン系ディスクについて、再生 3 T ピット／ランドジッタの特性を実測したところ、図 5 乃至図 8 に示しような実測結果が得られた。

### 【 0 0 3 1 】

図 5 及び図 6 は、シアニン系有機色素が塗布された CD-R メディアに対して 8 倍速記録して得られた再生 3 T ピットジッタ特性及び再生 3 T ランドジッタ特性の実測結果を示している。また、図 7 及び図 8 は、フタロシアニン系有機色素が塗布された CD-R ディスクに対して 8 倍速記録して得られた再生 3 T ピットジッタ特性及び再生 3 T ランドジッタ特性の実測結果を示している。実測結果として得られた再生 3 T ピットジッタ特性及び再生 3 T ランドジッタ特性を示している。図 5 乃至図 8 において、横軸は記録パワーを示し、縦軸は再生 RF 信号に含まれる RF ジッタを示している。

### 【 0 0 3 2 】

図 5 乃至図 8 には、図 1 0 に示した従来の 1 倍速記録時及び 2 倍速記録時の記録ストラテジを採用し、 $\theta = 0.25$ 、 $\alpha = 0.13$  T として記録した場合の実測結果を■印にて示し、図 1 1 に示した従来の 4 倍速記録時及び 2 倍速記録時の記録ストラテジを採用し、 $\theta = 0.25$ 、 $\alpha = 1.50$  T、 $\Delta P = 30\%$  として記録した場合の実測結果を▲印にて示し、本発明に係る光ディスク記録再生装置 1 0 0 による各記録パルスのパルス長さ等を最適化して記録した場合の実測結果を●印で示してある。

### 【 0 0 3 3 】

上記図 5 乃至図 8 に示す再生 3 T ピット／ランドジッタの特性の実測結果からも明らかなように、本発明に係る光ディスク記録再生装置 1 0 0 によれば、記録するメディアの有機色素の材料を問わず、記録後のピット／ランドジッタが大幅

に改善され、かつ、記録パワーにに対するジッタのパワーマージン、記録パワーの低下も大幅に改善することができる。

【 0 0 3 4 】

ここで、上記光ディスク記録再生装置 1 0 0 では、E Q E F M 記録パルス V 1 の略前端に 2 段階の積み重ね部分  $\Delta P 1$ 、 $\Delta P 2$  を有する波形の記録レーザを発光するようにしたが、図 9 に示すように、上記記録パルス生成回路 5 で E Q E F M 記録パルス V 1 と m 種類のパルス幅  $L 1 \sim L m$  の O D P 1 記録パルス V 1  $\sim$  O D P m 記録パルス V m を生成して、E Q E F M 記録パルス V 1 の略前端に m 段階の積み重ね部分  $\Delta P 1 \sim \Delta P m$  を有する波形の記録レーザを発光させて記録を行う記録ストラテジを採用することもできる。

【 0 0 3 5 】

【発明の効果】

以上のように、本発明によれば、形成するピット長に応じたパルス幅を有し、略前端部分の記録パワーを複数段に亘る階段状に設定した記録パルスを生成し、上記記録パルスによりパルス発光されるレーザ光を照射し記録を行うことにより、記録する符号間（ピット／ランド）の干渉による熱干渉を低減することができ、例えば 8 倍速などの高速記録時にも十分な再生マージンを得ることができる適切な形状のピット／ランドを形成することができる。また、記録ジッタの低減により記録品質の向上を図ることができる。

【 0 0 3 6 】

すなわち、本発明によれば、8 倍速記録や 1 2 倍速記録など 4 倍速よりも速い速度で適正なピット形状の記録を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明を適用した光ディスク記録再生装置の構成を示すブロック図である。

【図 2】

上記光ディスク記録再生装置において採用される記録ストラテジを示す波形図である。

【図 3】

上記光ディスク記録再生装置において記録パルス生成回路の具体的な構成例を示すブロック図である。

【図 4】

上記光ディスク記録再生装置による記録動作を示す波形図である。

【図 5】

シアニン系有機色素が塗布された CD-R ディスクに対して 8 倍速記録して得られた再生 3 T ピットジッタ特性の実測結果を示す図である。

【図 6】

シアニン系有機色素が塗布された CD-R ディスクに対して 8 倍速記録して得られた再生 3 T ランドジッタ特性の実測結果を示す図である。

【図 7】

フタロシアニン系有機色素が塗布された CD-R ディスクに対して 8 倍速記録して得られた再生 3 T ピットジッタ特性の実測結果を示す図である。

【図 8】

フタロシアニン系有機色素が塗布された CD-R ディスクに対して 8 倍速記録して得られた再生 3 T ランドジッタ特性の実測結果を示す図である。

【図 9】

上記光ディスク記録再生装置において採用される記録ストラテジの変形例を示す波形図である。

【図 1 0】

オレンジブック規格で規定されている 1 倍速記録時及び 2 倍速記録時の記録ストラテジを示す波形図である。

【図 1 1】

オレンジブック規格で規定されている 4 倍速記録時の記録ストラテジを示す波形図である。

【図 1 2】

理想的な記録状態を示す図である。

【図 1 3】

上記 1 倍速記録時及び 2 倍速記録時の記録ストラテジにより 8 倍速記録を行っ

た場合のピットの歪みを示す図である。

【図 1 4】

上記 4 倍速記録時の記録ストラテジにより 8 倍速記録を行った場合のピットの歪みを示す図である。

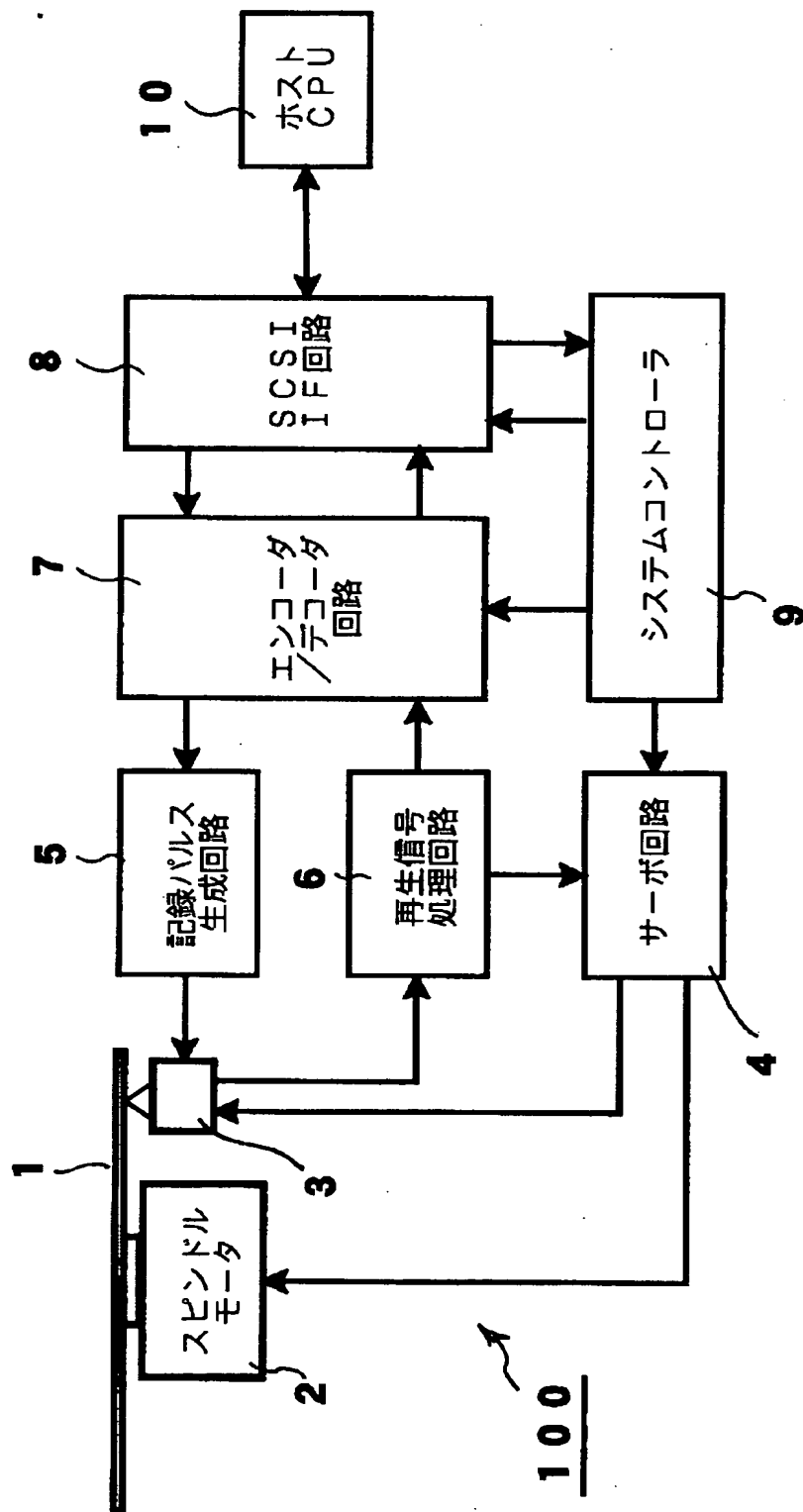
【符号の説明】

1 光ディスク、2 ピンドルモータ、3 光学ヘッド、4 サーボ回路、5 記録パルス生成回路、6 再生信号処理回路、7 エンコーダ／デコーダ回路、8 SCS I インターフェース回路、9 システムコントローラ、10 ホストコンピュータ、30 レーザドライバ回路、31, 32, 33 電圧／電流変換回路、34 加算回路、51 ピット／ランド長検出回路、52 EQEFM 生成回路、53 ODP1 生成回路、54 ODP2 生成回路、LD レーザダイオード、100 光ディスク記録再生装置

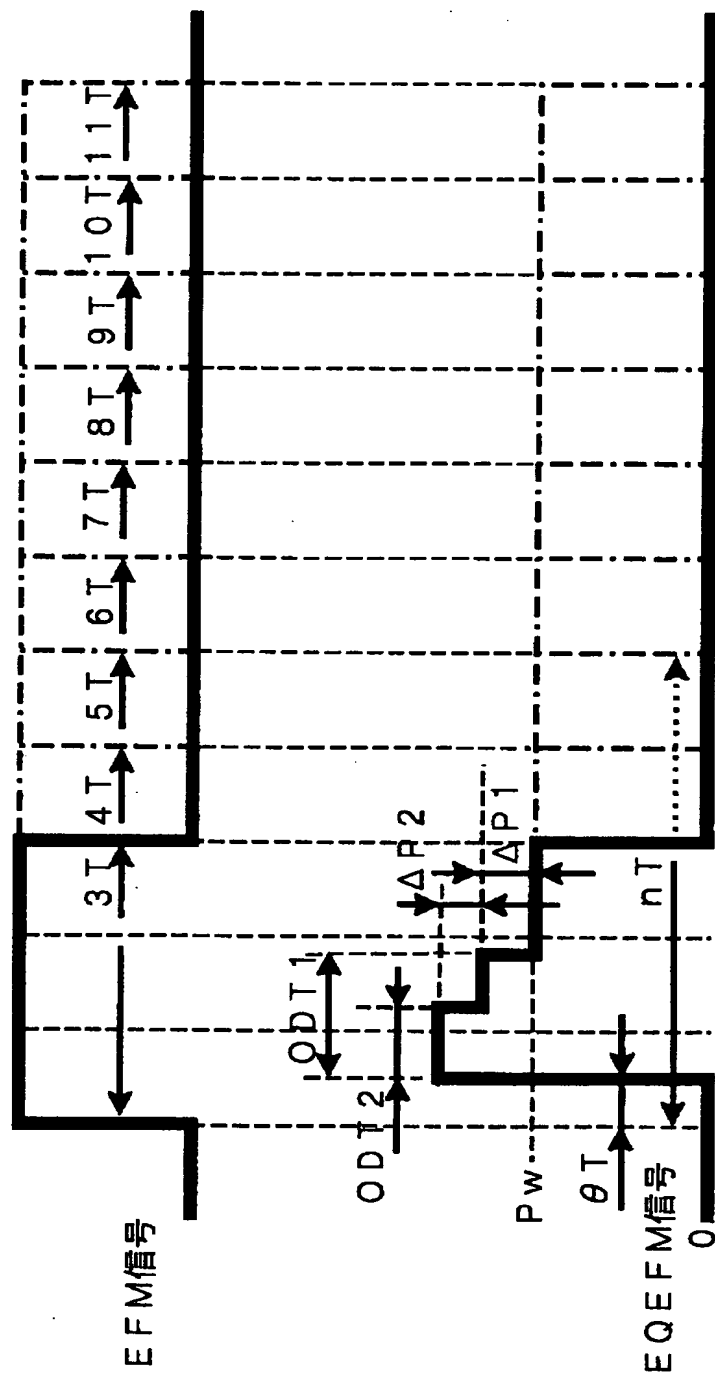


【書類名】 図面

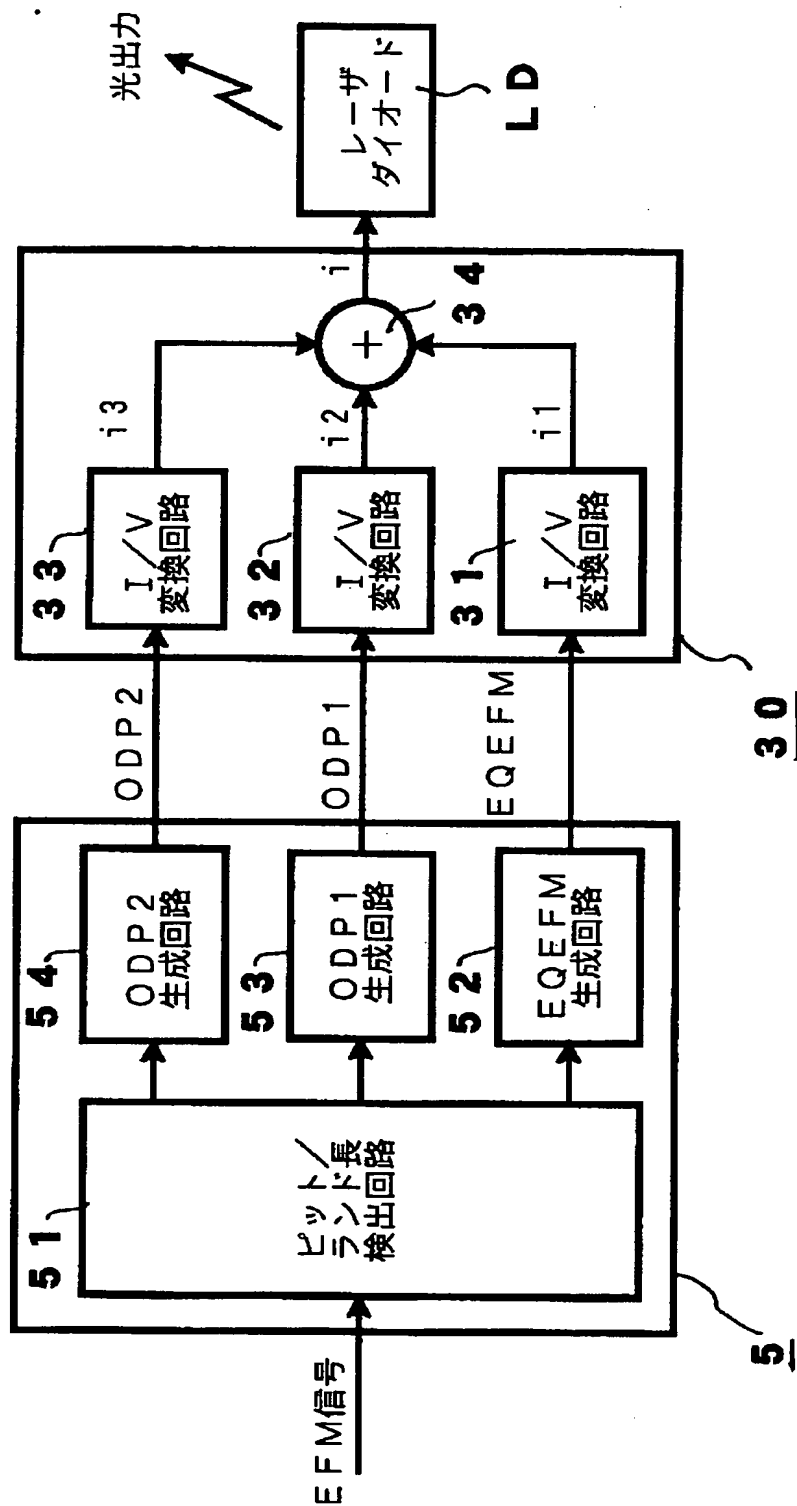
【図 1】



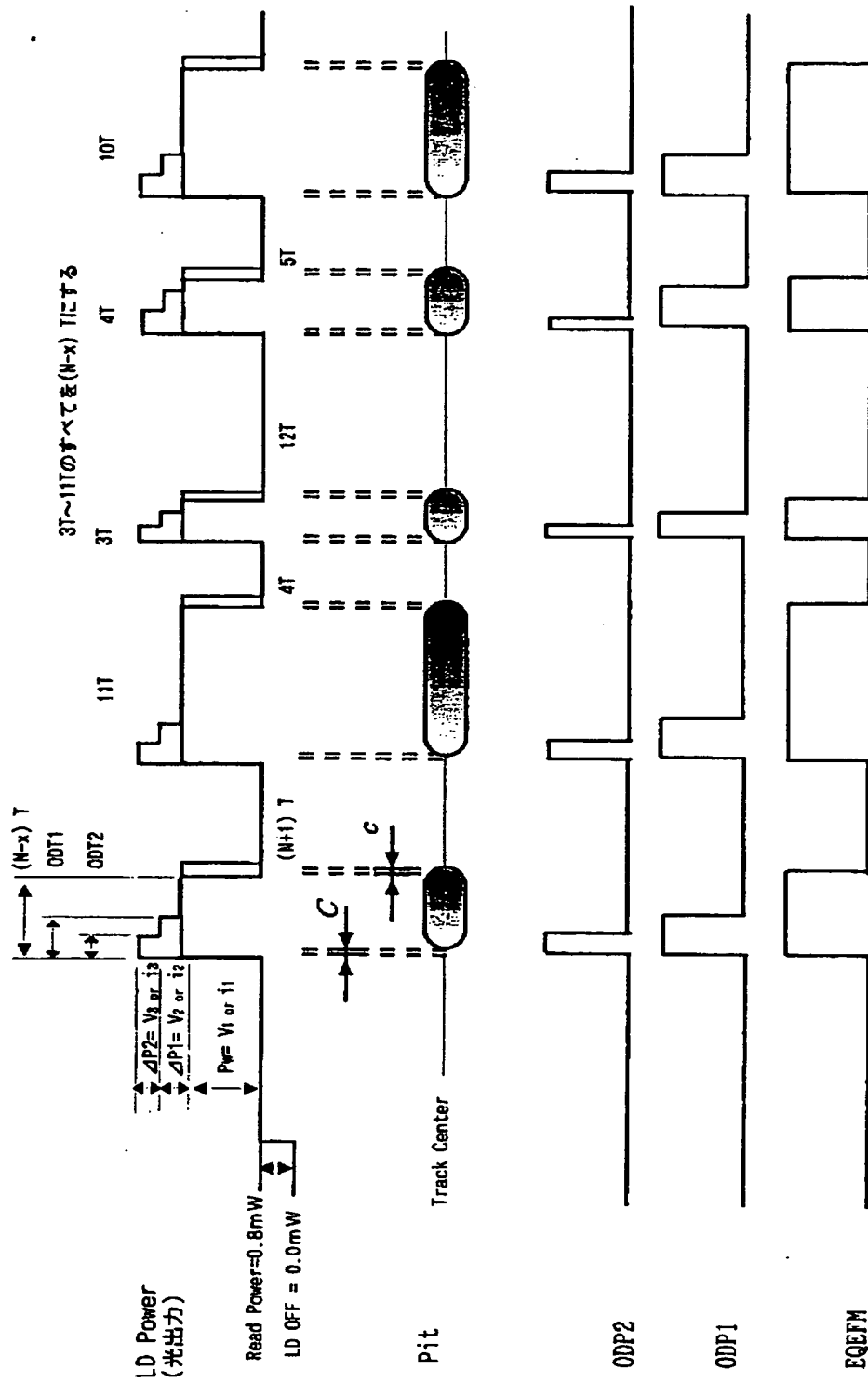
【図 2】



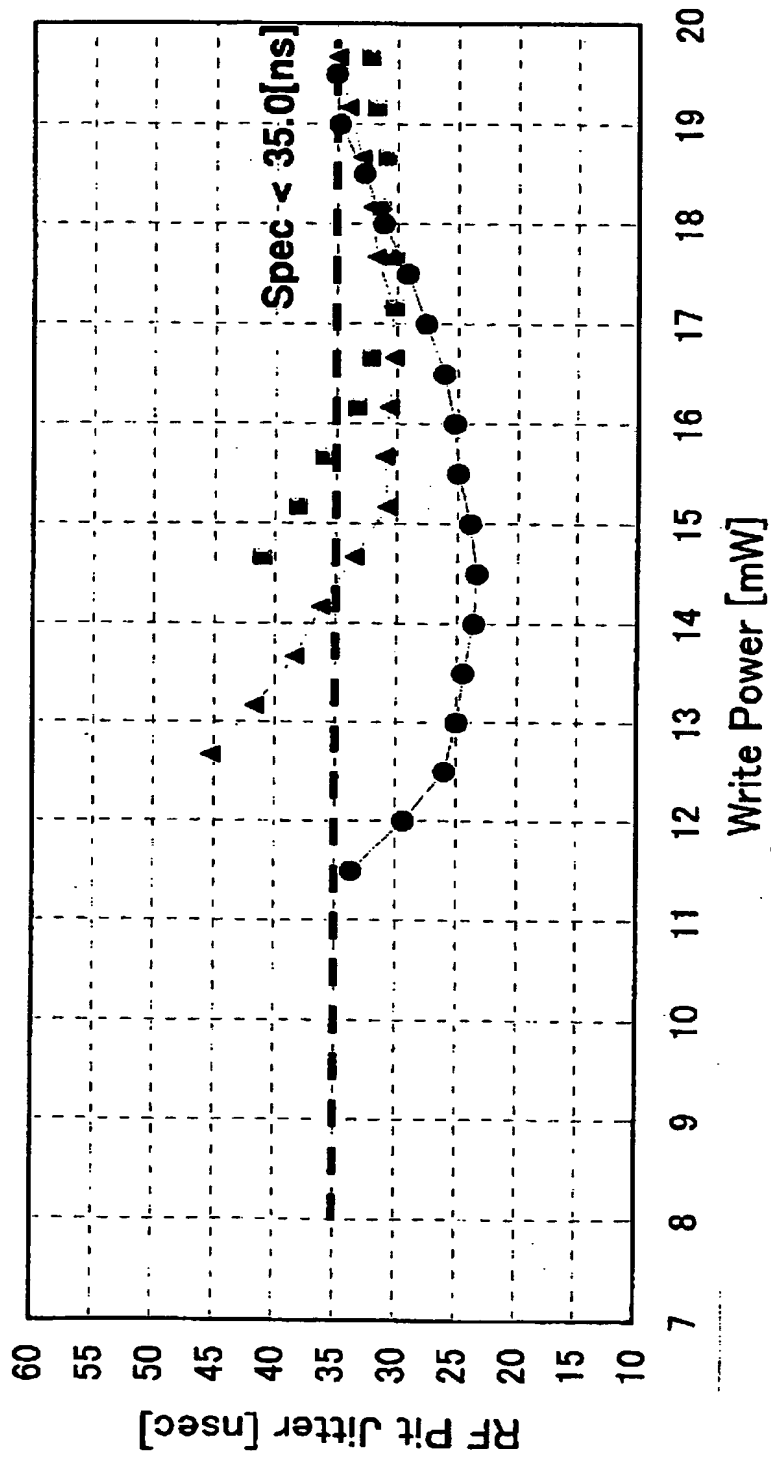
【図 3】



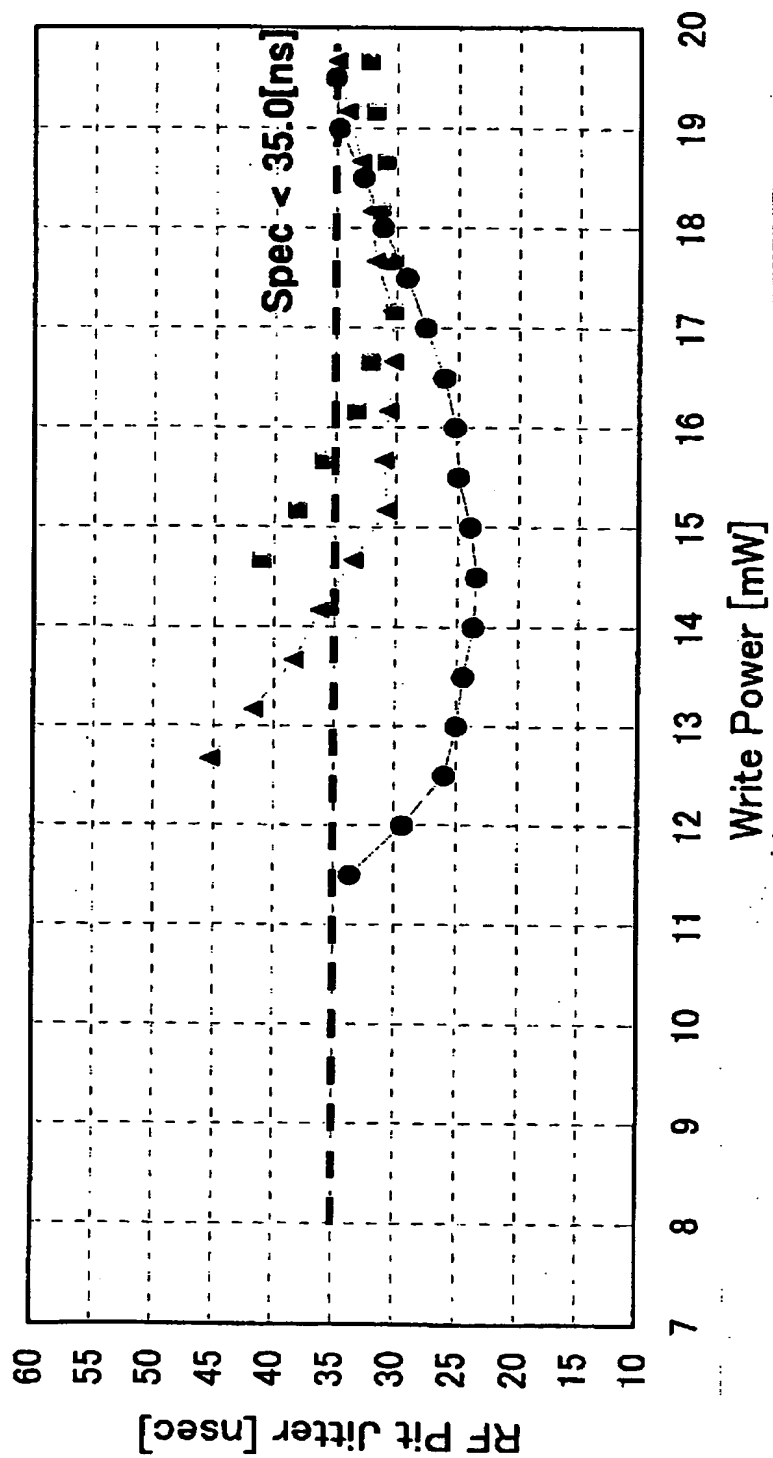
【図4】



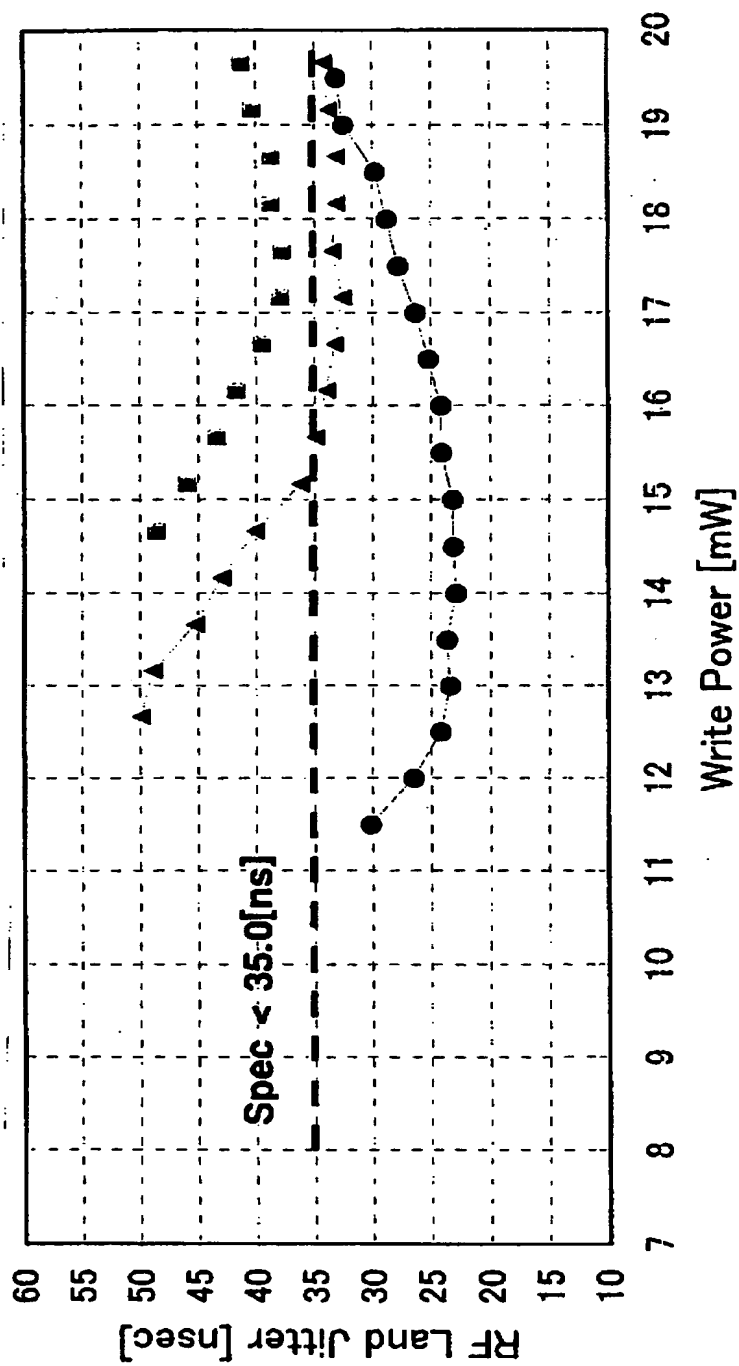
【図 5】



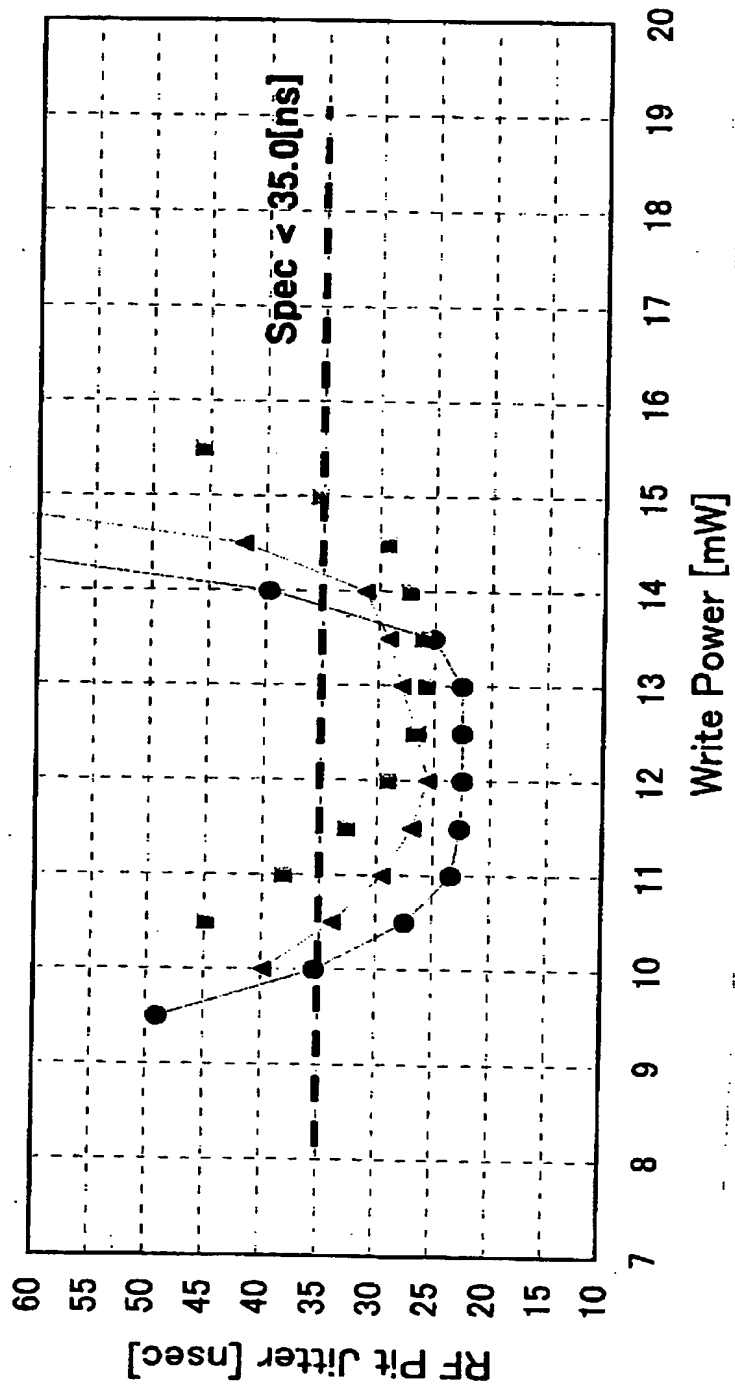
【図 6】



【図 7】

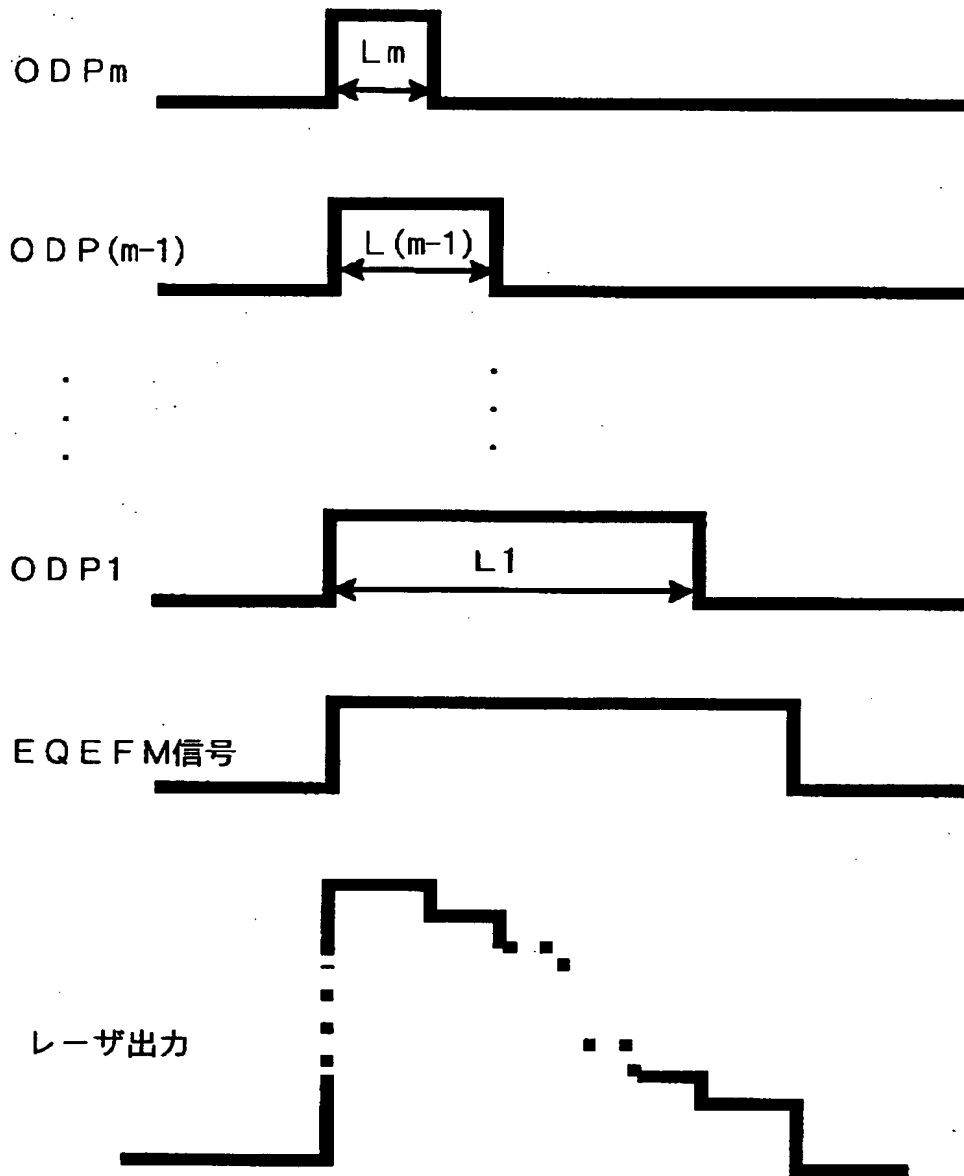


【図 8】

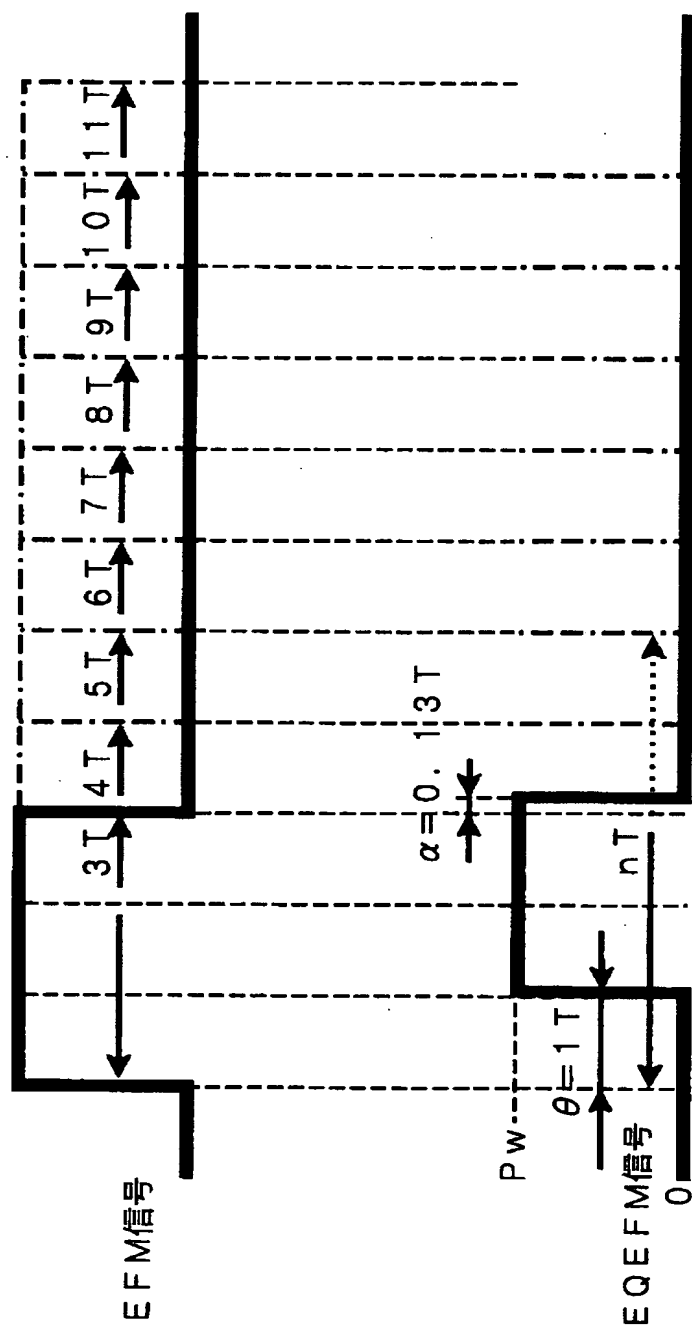




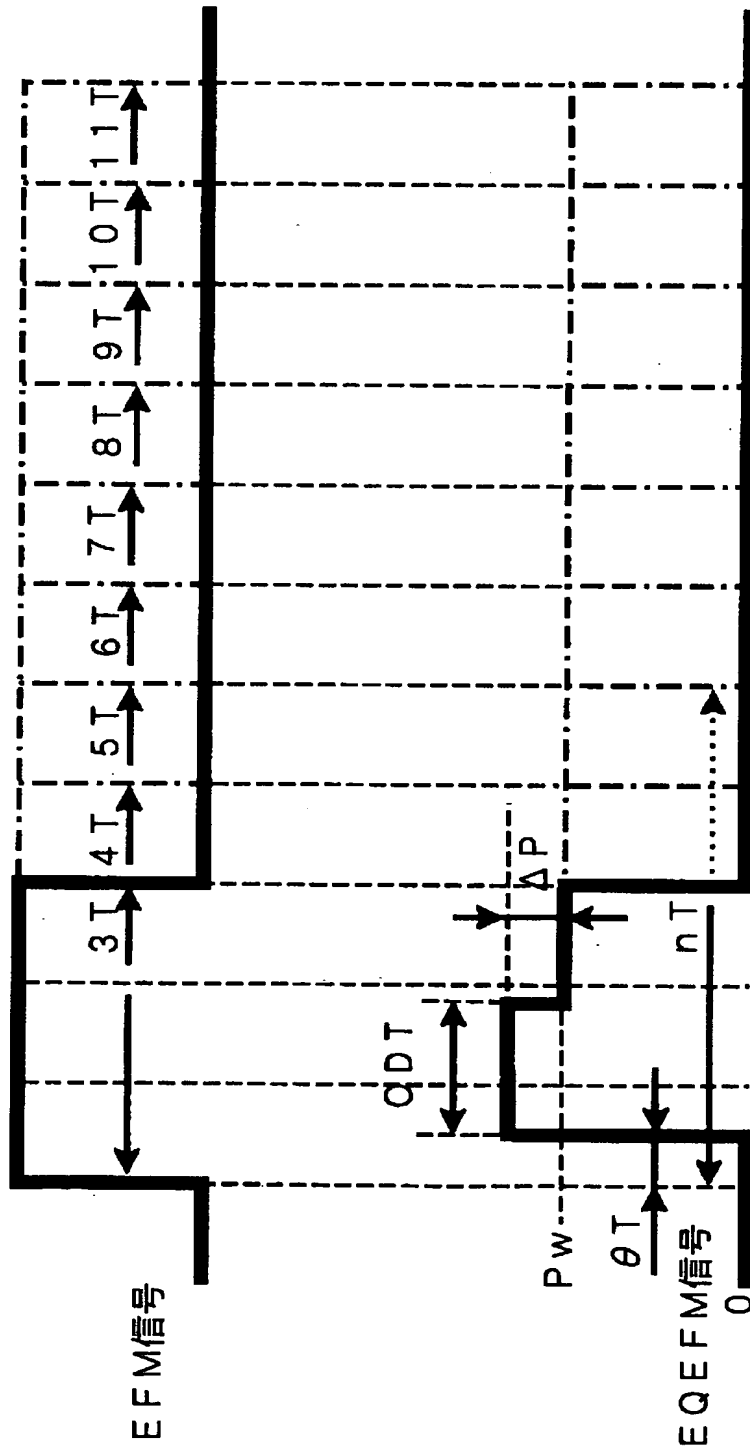
【図 9】



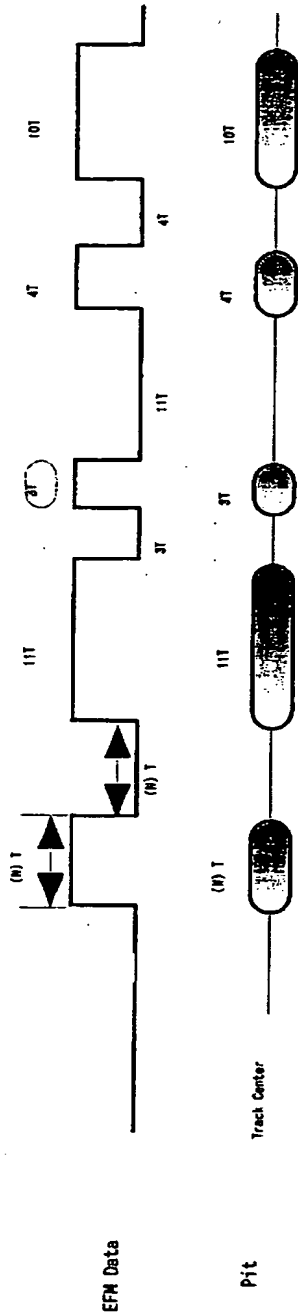
【図 10】



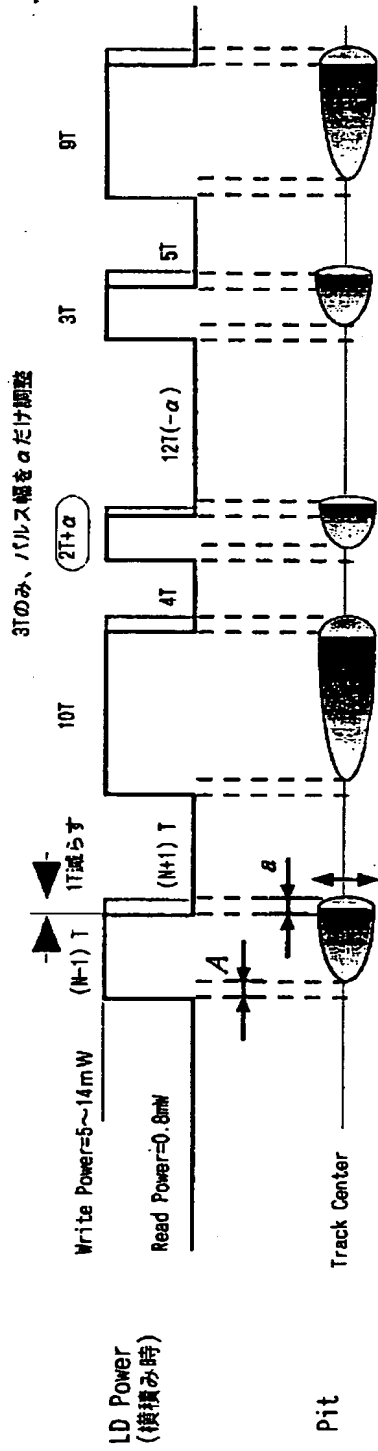
【図 11】



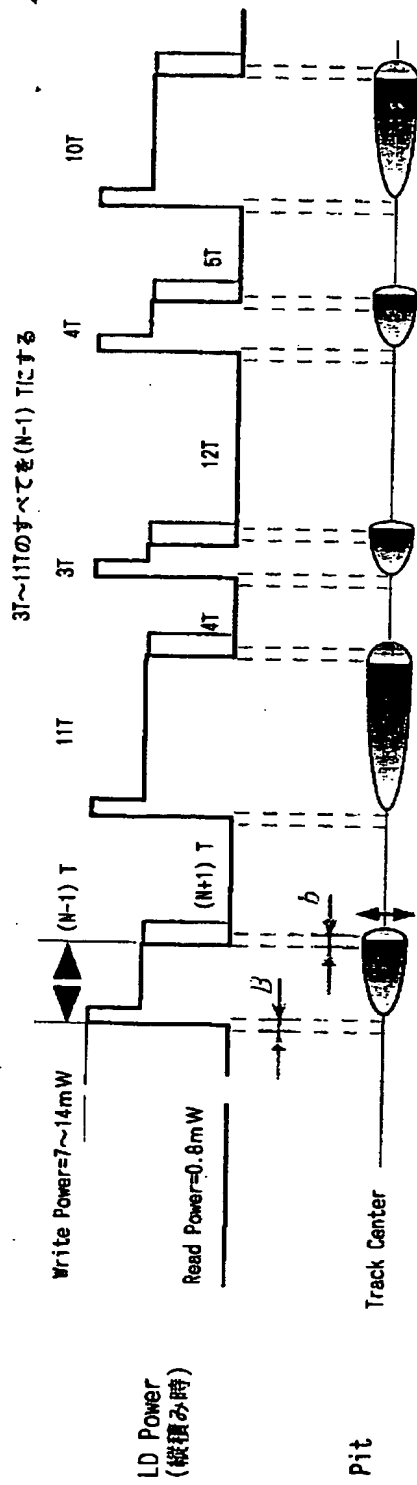
【図 12】



【図 13】



【図 14】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 8 倍速記録や 1 2 倍速記録など 4 倍速よりも速い速度で適正なピット形状の記録を行うことができるようにする。

【解決手段】 形成するピット長に応じたパルス幅を有し、略前端部分の記録パワーを複数段に亘る階段状に設定した記録パルスによりパルス発光されるレーザー光を追記型光ディスクに照射して 4 倍速よりも速度で記録を行う。

【選択図】 図 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002185]

1. 変更年月日	1990年 8月30日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都品川区北品川6丁目7番35号
氏 名	ソニー株式会社